

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200370		
法人名	ステラリンク株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ新かんべ 西ユニット		
所在地	一宮市今伊勢町新神戸字九反野18-1		
自己評価作成日	令和6年2月26日	評価結果市町村受理日	令和6年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoVoCd=2392200370-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナも一段落し、ご家族様の面会やボランティアなど制限なく積極的に受け入れています。施設にいても季節感を感じて頂けるよう行事や外出を実施しています。毎日の生活では、天気の良い日には外に洗濯物を干しに行ったり、散歩をしたり、食事の後片付けなど今までの生活リズムを大事に過ごして頂いています。また、施設のセラピー犬との触れ合いも利用者様の安らぎの時間となっています。利用者様の想いに寄り添いながら、利用者様も家族様も笑顔で過ごせるよう日々の支援を行っています。見学に見えた方からは「ここはとても雰囲気明るいですね」と声を掛けて頂いています。誇りも持って働くスタッフも多く、利用者様が笑顔で生活ができるよう日々サポートさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差し、利用者が家事を分担しながら共同生活を営むという、グループホーム本来の目的を実現しているホームである。利用者の自由を阻害しないよう職員間で協力するなど、利用者がその人らしく、それぞれのリズムで安心して「第2の自宅」として過ごせるよう支援している。ホームでは、職員の他にセラピー犬が活躍している。利用者の散歩の相伴や不穏となった利用者に寄り添って安らぎを与え、利用者・職員が笑顔で毎日が過ごせるよう活躍している。利用者の「できること」は維持し、できないことには手を貸し、利用者が地域に認知されて共に生活する環境が整えられている。コロナ禍による規制も徐々に緩和され、施設長は家族を招いてのホームイベントなども含め、地域住民も招くなど「地域に開かれたホーム」を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃より話し合いを重ね、理解を深めている。たんぼぼの理念10ヶ条を携帯し、朝礼等で読み合わせを行っている。	法人のビジョン・ミッション・コンセプト・行動規範を常に携帯している。「スタッフ間で考え、知恵を出し合って協力」して支援するホーム目標に沿い、利用者が自分らしく自由に過ごせるよう、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事等に出来る限り参加し交流を深めている。お祭りは施設に訪問して頂いたり、ラジオ体操の場所を提供している。	今年度は”こども神輿”も再開されホームを訪れている。子ども会の協力を得て地域の資源回収にも参加している。近隣住民から介護に関する相談も受けるなど、地域に根差したホーム運営がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括からの依頼で地域の認知症セミナーの講師やアドバイザーとして参加している。見学时など問い合わせに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、包括、一宮市介護保険課、ご家族の参加いただき助言頂いている。	運営推進会議には、地域包括支援センターや行政の担当者、民生委員、家族代表が参加し、運営状況の報告を中心に行っている。今年度は5回開催し、地域行事でのホーム利用の協力要請なども受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一宮市役所へ相談やわからないところなど電話で問い合わせを行っている。	運営推進会議に行政職員が必ず参加し、ホームの状況を把握している。市の連絡等はメールやFAXで受け、電話で相談や問い合わせをしている。市主催の研修へ積極的に参加し、良好な関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人や施設内で身体拘束の研修を行っており、スタッフも理解できており身体拘束は行っていない。入口の扉は防犯上施錠しているが、希望時は自由に出入りできる。	3ヶ月毎に「虐待防止委員会」を開催し、支援の状況確認や方法の検討等を行っている。フロアミーティングで職員周知を図り、身体拘束しない支援を実践している。拘束が必要となった場合、家族の承諾や記録の作成・保管など、手順に則って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の身体拘束・虐待防止委員会の議事録をフロアミーティング時に情報共有している。マニュアルを作成し、三ヶ月に一回のチェックリストを行い普段のケアの見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に後見人を利用されている利用者様もいるので担当の方と必要時連絡を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、締結時など文面を含め説明を行っている。不安がないよう疑問点についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際や電話対応時などご意見ご要望をお聞きしたり、運営推進会議に参加されたご家族様は聞き取り等行い、随時検討し運営に反映している。	運営推進会議に家族代表が参加し、面会や連絡時にも意見や要望を聞いている。面会の際には職員が対応し、意見・要望は施設長に報告している。随時、対応・実施が検討され、事業運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は事あるごとに事業所に足を運び職員からの意見を聞くよう努めている。また、管理者も現場にヘルプで入り職員との交流を日頃から行い運営に反映している。	フロアミーティングや申送り時のほか、業務中や休憩時でも意見や提案を聞き取っている。シフト調整や成功事例を共有するなど、職員間で意見を出し合い協力できる体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回昇給があり管理者が数名推薦している。また、勤務日数を増やしたい職員には労働契約の更新を行い、能力が発揮できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修を行い、半年後にフォローアップ研修を行いスキルアップを目指している。全職員に対し年二回の職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者同士で週一回ミーティングを行い情報共有している。また、包括や市が主催する講習会などに参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談にてご本人様、ご家族様の要望を聞く時間を設けている。入居後もいつでも面会可能とし、不安や要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やご来所頂いた際に、不安に思っている事や困っている事を伺い安心して施設生活を過ごして頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は穏やかに施設で生活することを第一にする事をご家族様にお話し、その後個別プランを立てることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちに寄り添い、今までの生活リズムを変えないよう入浴や起床時間など配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への電話連絡をこまめに取り、普段の様子など伝えている。ご家族や本人の思いに寄り添い関係を築いていっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族だけでなく友人の面会もご家族様に確認の上、可能にしている。また、馴染みの場所などへも出かけている。	家族・親族や知人の面会や外出の他、お墓参りをする利用者もいる。毎日の入浴、新聞購読、調理など、生活習慣や趣味の継続支援にも努めている。近隣のたい焼き屋は、新たな馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	脳トレや散歩などを利用者様複数で行ったり、スタッフが間に入り回想法などで話を盛り上げるなどできるだけ一人の時間を作らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にいつでも施設へ遊びに来てくださるようお伝えしている。また来所された際には現状をお聞きし、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人との関わりやご家族様のお話から、ご本人の意向の把握に努めている。	担当制を導入し、利用者と密な関わりを持って支援している。発語や仕草・表情などからの気づきは、申送りノートや管理実施記録に記録し、職員間で情報共有している。内容によっては介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談だけではなく、入所後もご本人との会話の中から聞き取り、より深く把握できるように努めている。また、ご家族様やご友人様などからも生活歴を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご本人との関わりから、スタッフ一人一人が確認し、申し送りやミーティングなどで情報共有し現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	簡易評価表を作り、毎月担当スタッフが評価している。それをプランにも反映している。また担当者会議でもご本人、ご家族様、スタッフ各々の意見を聞いている。	毎月、担当職員が簡易評価表で支援状況を確認している。計画作成者が更新時にモニタリング評価をし、家族の意見・要望や各職員の意見を参考にして、利用者の現状に合った介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日のご様子やケアについて『管理実施記録』に個別に記入している。スタッフ間の相談やミーティングでの話し合いによってより良い方法を検討し、情報共有、ケアプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の気持ちに寄り添い、ちょっとした希望でも聞き逃さずニーズとして捉え柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法や傾聴のボランティアで地域の人との交流を図っている。成年後見人制度など利用者に必要だと思われる資源を把握し、ご家族様やご本人に提案できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医の受診を希望される方については、希望に応じた支援をしている。又、GHIに内科と歯科の協力医があり、定期的な往診の他、適宜連絡し指示を仰げる体制を確保している。	全利用者がホーム協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。歯科医も月2回訪れ、適宜歯科にも受診ができる。通院は家族対応が原則であるが、適切な受診ができるよう柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在も、看護師の配置はできていない。介護スタッフ同士でしっかりと情報共有し、受診のタイミングや処置の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至る経緯や、最近のご様子、既往歴、内服薬等について出来る限り伝達している。入院中は相談員と連絡を取り、退院時かかりつけ医とのスムーズな連携を図れるように情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した際の確認書を記入して頂いている。介護度が上がった場合など細かにご家族様と話し合っている。現在も看取りケアを行う予定はないが医療行為のない限りはここでの生活を提案している。	看取りしない方針ではあるが、医療行為を必要としない限り移設基準は設けず、継続した支援が受けられる環境となっている。入居時の確認のほか、重度化に伴い家族と話し合い、本人・家族の意向に沿った支援をするよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回防災訓練を行い、その中で急変時の対応について学ぶ時間を設けている。救急搬送を想定し、見やすい所に救急対応方法を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施し、心肺蘇生法やAEDの使用方法についても学ぶ時間を設けている。又、日常の散歩や通勤時などにも危険箇所を確認している。	併設のデイサービスと共同で防災訓練を行っている。今年は水害も想定し、利用者も参加した近隣施設への避難訓練を実施した。短時間だが停電も経験し、カセットコンロや懐中電灯も準備している。	設備状況や被災想定も考慮し、災害対策を検討することが望まれる。また、訓練に際しては消防団等の参加を得て、助言・アドバイスを受けておくことも望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者様の人格を尊重し、言葉遣いに気を付け、訪室時やトイレ誘導時にノックするなどプライバシー保護に努めている。	さん付けを基本にやさしい声掛けを実践している。何事も無理強いせず、利用者の意向を大切に、自由に活動できるよう支援している。トイレや入浴時など、プライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間など自由に日常生活を組み立てていけるように配慮し、できる限り自己決定、自己実現が叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、お一人お一人のペースや生活習慣、その方の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみができるように、ご家族様と協力し支援している。朝の更衣時や入浴時など利用者様と一緒に服を選ぶなど本人の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗いなど今までの日常生活の流れを大切にしている。外食や喫茶店などの外出することで普段とは違う雰囲気を楽しんで頂けるよう支援している。	配食サービスを活用し、朝・夕は手作りの食事を提供している。利用者も力量に合わせて調理や盛り付けなど手伝っている。イベント食やおやつ作りなども取り入れ、楽しく食が進むように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分にとろみをつけたり、飲みやすい飲料を提供するなど水分摂取がしやすい工夫をしている。栄養バランスなど考え、利用者様の状態に合わせ食事の提供量を考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様に合わせた支援方法で、口腔ケアの支援を行っている。月二回提携歯科の往診があり、口腔ケアのアドバイスを受けるなど日頃から協力を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、一人一人の排泄のタイミングを知り、トイレで排泄が行えるように支援している。	利用者に合った声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。利用者の状態の変化を話し合い、布パンツに改善した例もある。夜間も不快感の除去や睡眠優先など、利用者に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を記録し把握した上で、毎日の体操への参加、朝牛乳を飲んでいただくなど日頃より便秘予防に取り組んでいる。それでも難しい時には薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を決めず、利用者様のタイミングに合わせて気分よく入浴できるよう、一人一人に合わせた対応をしている。	隔日を基本に、利用者のタイミングに合わせて入浴できるよう取り組んでいる。季節湯や入浴剤などを使い、色や香り、季節を感じ、寛いで湯船に浸かりながら会話も楽しめる入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、エアコンの温度調整や冬場の加湿など快適に過ごせるよう環境整備に努めている。ご利用者様のその日の体調を考慮して休息を促したり、フロア内のソファの活用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を職員がいつでも閲覧できるようにしている。内服薬に変更があった際には申し送りノートへ記載し口頭でも伝えている。むせ込み防止の為、粉薬を水に溶きペースト状にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とされてきたこと、興味のあることなど一人一人に合った役割や楽しみが持てるように支援している。気分転換や季節を感じてもらえるよう外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様やご家族様の要望に添えるよう支援し、状況に応じ地域の支援を受け入れる体制が整っている。	散歩は、体調や天候を考慮しながら日課となっている。家族との外出や外食は、制限を設けていない。エントランスホールのベンチでは、雨の日でも外気に触れることができる。たい焼きを買いに出かけたり、日常的な外出の機会を多く設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、ご自身で金銭を自己管理をしていただいているが、現在の利用者様にはいっしょにやらない。金銭管理が難しい場合でも、お金を使うことが途絶えないよう預かり方を工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちで会話を楽しんでいる利用者様もいらっしゃる。又、施設の電話に関してはご家族様との関係性にも配慮しつつ、ある程度いつでも自由にかけて頂けるよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事に参加した際やお出掛けなど笑顔の写真を掲示したり、季節を感じてもらえるよう掲示するなど居心地よく生活が送れる工夫を行っている。	天井が高く明るいリビングは、動線を確保し、利用者が寛いで過ごせる空間となっている。又、ユニット間も自由に行き来できる環境である。事務室に居るセラピー犬は、不穏になった利用者に寄り添うなど活躍している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の人間関係を考慮した上で、気の合う方と交流ができるようにしている。食事の際の席の位置も関係性や相性を考慮し決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室がご自宅の延長線上に存在出来るよう、できる限り使い慣れた物などを持ってきて頂けるよう入所時に依頼している。ご本人にとって馴染みの物の重要性をご家族様にお伝えして協力を依頼している。	居室での生活環境が変わらないように、使い慣れたタンスや小物、テレビやラジオなど持ち込み、自分の部屋として居心地よく過ごせるように配慮している。家族の写真なども飾り、家族との繋がりを大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面への配慮として、必要な箇所には手すりなどを設置している。ご自分でできる事は見守り、時間がかかってもご自身でやっていただいている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200370		
法人名	ステラリンク株式会社		
事業所名	グループホームたんぼぼ新かんべ 東ユニット		
所在地	一宮市今伊勢町新神戸字九反野18-1		
自己評価作成日	令和6年2月26日	評価結果市町村受理日	令和6年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2392200370-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナも一段落し、ご家族様の面会やボランティアなど制限なく積極的に受け入れています。施設にいても季節感を感じて頂けるよう行事や外出を実施しています。天気の良い日には外に洗濯物を干しに行ったり、散歩をしたり、食事の準備を一緒に行うなど今までの生活リズムを大事に過ごして頂いています。手先の器用な利用者様やスタッフも多く作品作りも行っており、季節感を感じて頂いています。懐かしい唱歌をながし、口ずさみながら若かりし頃のお話しに花が咲くことも多くみられています。利用者様の想いに寄り添いながら、利用者様も家族様も笑顔で過ごせるよう日々の支援を行っています。見学に見えた方からは「ここはとても雰囲気が明るいですね」と声を掛けて頂いています。誇りも持って働くスタッフも多く、利用者様が笑顔で生活ができるよう日々サポートさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃より話し合いを重ね、理解を深めている。たんぼぼの理念10ヶ条を携帯し、朝礼等で読み合わせを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事等に出来る限り参加し交流を深めている。お祭り時は施設に訪問して頂いたり、ラジオ体操の場所を提供している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括からの依頼で地域の認知症セミナーの講師やアドバイザーとして参加している。見学時など問い合わせに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、包括、一宮市介護保険課、ご家族の参加いただき助言頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一宮市役所へ相談やわからないところなど電話で問い合わせを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人や施設内で身体拘束の研修を行っており、スタッフも理解できており身体拘束は行っていない。入口の扉は防犯上施錠しているが、希望時は自由に入出入りできる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の身体拘束・虐待防止委員会の議事録をフロアミーティング時に情報共有している。マニュアルを作成し、三ヶ月に一回のチェックリストを行い普段のケアの見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に後見人を利用されている利用者様もいるので担当の方と必要時連絡を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、締結時など文面を含め説明を行っている。不安がないよう疑問点についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際や電話対応時などご意見ご要望をお聞きしたり、運営推進会議に参加されたご家族様は聞き取り等行い、随時検討し運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は事あるごとに事業所に足を運び職員からの意見を聞くよう努めている。また、管理者も現場にヘルプで入り職員との交流を日頃から行い運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回昇給があり管理者が数名推薦している。また、勤務日数を増やしたい職員には労働契約の更新を行い、能力が発揮できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には新人研修を行い、半年後にフォローアップ研修を行いスキルアップを目指している。全職員に対し年二回の職員研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の管理者同士で週一回ミーティングを行い情報共有している。また、包括や市が主催する講習会などに参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談にてご本人様、ご家族様の要望を聞く時間を設けている。入居後もいつでも面会可能とし、不安や要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話やご来所頂いた際に、不安に思っている事や困っている事を伺い安心して施設生活を過ごして頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は穏やかに施設で生活することを第一にする事をご家族様にお話し、その後個別プランを立てることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の気持ちに寄り添い、今までの生活リズムを変えないよう入浴や起床時間など配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への電話連絡をこまめに取り、普段の様子など伝えている。ご家族や本人の思いに寄り添い関係を築いていっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族だけでなく友人の面会もご家族様に確認の上、可能にしている。また、馴染みの場所などへも出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	壁画や作品作り、散歩などを利用者様複数で行ったり、スタッフが間に入り回想法などで話を盛り上げるなどできるだけ一人の時間を作らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にいつでも施設へ遊びに来てくださるようお伝えしている。また来所された際には現状をお聞きし、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人との関わりやご家族様のお話から、ご本人の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談だけではなく、入所後もご本人との会話の中から聞き取り、より深く把握できるように努めている。また、ご家族様やご友人様などからも生活歴を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご本人との関わりから、スタッフ一人一人が確認し、申し送りやミーティングなどで情報共有し現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	簡易評価表を作り、毎月担当スタッフが評価している。それをプランにも反映している。また担当者会議でもご本人、ご家族様、スタッフ各々の意見を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日のご様子やケアについて『管理実施記録』に個別に記入している。スタッフ間の相談やミーティングでの話し合いによってより良い方法を検討し、情報共有、ケアプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の気持ちに寄り添い、ちょっとした希望でも聞き逃さずニーズとして捉え柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法や傾聴のボランティアで地域の人との交流を図っている。成年後見人制度など利用者が必要だと思われる資源を把握し、ご家族様やご本人に提案できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医の受診を希望される方については、希望に応じた支援をしている。又、GHに内科と歯科の協力医があり、定期的な往診の他、適宜連絡し指示を仰げる体制を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在も、看護師の配置はできていない。介護スタッフ同士でしっかりと情報共有し、受診のタイミングや処置の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至る経緯や、最近のご様子、既往歴、内服薬等について出来る限り伝達している。入院中は相談員と連絡を取り、退院時かかりつけ医とのスムーズな連携が図れるように情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した際の確認書を記入して頂いている。介護度が上がった場合など細かにご家族様と話し合っている。現在も看取りケアを行う予定はないが医療行為のない限りはここでの生活を提案している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回防災訓練を行い、その中で急変時の対応について学ぶ時間を設けている。救急搬送を想定し、見やすい所に救急対応方法を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施し、心肺蘇生法やAEDの使用方法についても学ぶ時間を設けている。又、日常の散歩や通勤時などにも危険箇所を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者様の人格を尊重し、言葉遣いに気を付け、訪室時やトイレ誘導時にノックするなどプライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事時間や入浴時間など自由に日常生活を組み立てていけるように配慮し、できる限り自己決定、自己実現が叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、お一人お一人のペースや生活習慣、その方の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみができるように、ご家族様と協力し支援している。朝の更衣や入浴時など利用者様に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、盛り付け、片付けなどできることは一緒に時折外食にも出かけ、楽しんでいただけるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの栄養やバランスを考慮し、摂取を記録し把握している。嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者様に合わせた支援方法で、口腔ケアの支援を行っている。月二回提携歯科の往診があり、口腔ケアのアドバイスを受けるなど日頃から協力を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ、一人一人の排泄のタイミングを知り、トイレで排泄が行えるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を記録し把握した上で、毎日の体操への参加、朝牛乳を飲んで頂くなど日頃より便秘予防に取り組んでいる。それでも難しいようなら薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を決めず、利用者様のタイミングに合わせて気分良く入浴できるよう、一人一人に合わせた柔軟な対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて、エアコンの温度調整や冬場の加湿など快適に過ごせるよう環境整備に努めている。ご利用者様のその日の体調を考慮して休息を促したり、フロア内のソファの活用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を職員がいつでも閲覧できるようにしている。内服薬に変更があった際には申し送りノートへ記載し口頭でも伝えている。むせ込み防止の為、粉薬を水に溶きペースト状にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とされることや興味のあることなど一人一人に合った役割や楽しみが持てるよう支援している。気分転換が図れるように外食や散歩などの外出を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様やご家族様の要望に添えるよう支援している。時には、福祉タクシーなどのサービスも受け外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方には、ご自身で金銭を自己管理をいただいているが、現在の利用者様にはいらいっしやらない。金銭管理が難しい場合でも、お金を使うことが途絶えないよう預かり方を工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちで会話を楽しんでいる利用者様もいらいっしやる。又、施設の電話に関してはご家族様との関係性にも配慮しつつ、ある程度いつでも自由に掛けて頂けるよう取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた壁画を利用者様と一緒に制作するなど季節感を感じてもらっている。行事や出掛けた時の笑顔の写真を掲示するなど居心地よく過ごせる工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の人間関係を考慮した上で、気の合う方と交流ができるようにしている。食事の際の席の位置も関係性や相性を考慮し決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室がご自宅の延長線上に存在出来るよう、できる限り使い慣れた物の設置を依頼している。ご本人にとって馴染みの物の重要性をご家族様にお伝えして協力を依頼している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面への配慮として、必要な箇所には手すりなどを設置している。ご自分でできる事は見守り、時間がかかってもご自身でやっていただいている。		